

これがあたしの「目隠しピンポンドッシュ」

近藤夢

「目隠しピンポンドッシュ」と「霧が出ていた」、この二つのお題を使って小説を書け。霧が出ていたは、まだ情景描写としていくらでも使えるけど、目隠しピンポンドッシュなどという、ふざけたお題でどう書けばいいのか分からず、あたしは思わず頭を抱える。お題の時点で十分すぎるほど面白いのに、どう書けというのだ。

まあ、そんなことを言っても、他の人はこのお題でしつかりと作品を作るのだろう。そう考えると、あたしも負けてはいられない。

みんなが認めるような作品を、書いてやろうじゃないの。

そう意気込んでみても、お題のことを考えるとすぐのため息をついてしまう。お題を聞いてから、なかなかこのループから抜け出せない。

とりあえず、さつきから何かひらめかないかと適当に書き殴ったアイデアを見る。

「実際に目隠しピンポンドッシュはやらない」実際にやったのを書く、絶対に誰かと被りそうだし——そもそも、目隠しでピンポンドッシュをやるような状況が思いつかない。

「スポーツものは書けそうにない」あたしがいつも書いているのは、高校生くらいの青春物。特に、最近はスポーツをテーマにしているのが多いけど、このお題でそれは無理だ。

「ハラへった」そう思って、さつき食べてきた。

「目隠しでピンポンドッシュをやることで、変身する子供向けヒーローもの」……これは、何を考えていたのかしら。

「スーパー・ピンポンドッシュャー・マークII」……あたしの字だけど、誰が書いたのだろう。頭に虫でもわいているんじゃないかしら。

何だかよくわからない落書きばかりの紙を握りつぶして、何度目になるかわからないため息をつく。あたしに、ドーしろと言うのだ。

まだ何も思いつかないのに、無情にも締切の時間は近づいてくる。

こうなりや適当に書きながら、お題をどう使うか考えてやるわよ。そうでもしないと、一生できあがりそうにないし！

ある霧の出ている夜。一つの仕事が終わって、次の仕事を探している傭兵の元へ、名も知らぬ老人から依頼を頼まれる。十歳くらいの幼い少女をつれた彼は、少女を

守ってくれと言って姿を消す。
彼女をつれて旅を始める主人公。その主人公の元へ現れる一人の暗殺者——これが、一年にわたる彼の戦いの日々の始まりだった。

完

近藤夢先生の次回作にご期待ください！

……なにこれ。書いていてあまりの酷さに、まだ戦いも始まったばかりだが、無理やり終わらせちゃった。やつぱり、何を書くかしっかりと考えた上で書かないと、失敗するわね。

書いた原稿をごみ箱に捨てて、再び頭を抱える。
無理やり目隠しピンポンダッシュを使おうとしたら、主人公のくだらないジョークでしかでなかった上に、本当に無理やり出したのがわかるくらい、不自然な流れで出てきた。

だから、最初から目隠しピンポンダッシュなんてお題は、難しいのよ！　せめて「目隠し」か「ピンポンダッシュ」かとわけてくれるなら、自由に料理のしようがあるのに、二つ並べてしまうと勝手に自由度が減ってしまう。

これが一人だけで書くお題なら、目隠しピンポンダッ

シュというお題は面白すぎるから、いいかもしれない。しかし、今は複数人で書いているのだ。被ることを考えると、何も書けなくなる。

……やつぱり目隠しピンポンダッシュが悪い。普通の人にとつて、ピンポンダッシュという幼稚なはずらも縁がないようなものなのに、さらに目隠しをつけることで意味がわからなくなってる。

そもそも、ピンポンダッシュって何なんだ？　チャイムを押して、家の人が出てくるまでにダッシュで逃げるという遊びだろうという事は知っているが、そのどこが面白いのかも理解できない。

うがががが。あたしにどーしろって言うのよ！　そう叫んだときに、ふと思いついてPCに向かった。少しばかりトリッキーではあるが、このお題をうまく調理するにはこれしかないだろう！

そう思ってた書いたのが、これである。

うふふふふ。「ピンポンダッシュ」を「小説を書くこと」に置き換えると、いつも書いているジャンルに挑戦せずに、手探りで小説を書いているこの状況は、目隠しでピンポンダッシュをやっているようなものではないか！

がはははは！　あたし、よくやった！　このおかしな

お題を相手に、よくやった！ 自画自賛しまくりたいほどに、嬉しい。いやあ、苦し紛れに「目隠しピンポンダッシュのお題で苦しむあたし」みたいな小説を書いている途中に、さっきのこじつけを思いついたのは、本当に自分でもびっくりだ。

陽気に笑いながら、ここで筆を置こうとして——一つだけ、霧が出ていたというお題を使っていないことに気づいた。咄嗟にあたしはカーテンを開けて空を見上げる。雲一つない真夏のくそ暑い太陽が、真上からコンクリートの地面を照りつけ、陽炎が見える。そして町全体を霧が包んでいた。

完

キーワード

「目隠しピンポンダッシュ」、「霧が出ていた」